| 報告番号 | 香大医博甲　第８３５号 |
|---|---|

様式１０７

# 学位論文審査の結果の要旨

令和 5 年 2 月 3 日

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 審査委員 | 主　査 | 樋井 英人 | | |
| | 副主査 | 木下 博之 | | |
| | 副主査 | 岡野 圭一 | | |
| 願出者 | 専攻 | 医学 | 部門 | （平成２７年度以前入学者のみ記入） |
| | 学籍番号 | 18d732 | 氏名 | 村上　あきつ |
| 論文題目 | Income Change One Year after Confirmed Cancer Diagnosis and Its Associated Factors in Japanese Patients | | | |
| 学位論文の審査結果 | (合格)　・　不合格　（該当するものを○で囲むこと。） | | | |

〔要旨〕

本研究に関する学位論文審査委員会は令和5年2月3日に行われた。

本研究では、日本人がん患者における診断後1年間での所得変化の割合とその関連因子を検討した。変化割合での報告は本邦初であり、新たな視点として同じ職場での雇用継続との関連を検討した。その結果、日本人がん患者は診断後1年に所得の3分の1を喪失し、その変化は病期、診断時の雇用形態、診断時と同じ職場での継続雇用に関連していた。

審査においては

- 研究の適格担った人数が72/回収数483人と少なかった理由はなにか？高齢者が多く、非就労者が多かったからか？
- サンプル数は事前に定めたものか？
- サンプル数はパラメトリック手法を用いて算出しているが、実際の解析はノンパラメトリック解析を用いている。サンプル数を算出する際に、より大きく群間が離れている比率で計算するとサンプル数が違った可能性があるだろう。
- 想定外の結果で重要なところはあったか？

- 高齢者に記載漏れが多かったか？
- 経済毒性の指標は貯蓄なども含まれるが、今回の検討で貯蓄については調査したか？
- アメリカと日本で経済毒性の内容、背景などに違いはあるのか？
- 長期的に研究を行うためにはどのようにしたらよいか？
- 今後のがん患者の経済毒性解決の展開として、遠隔医療の推進なども一つの糸口になる可能性があるだろう。
- がんの部位の影響が大きいと思われるが、本研究では差がなかったのをどう解釈するか？
- 同じ職場で就業継続できなかった理由は何か？
- 本研究結果を踏まえて、今後がん相談支援センターなどで活かせる方法は？
- 自営業もかなり収入が減っているように思われるがどう思うか？
- 経済毒性にはどのような要素が含まれるか？
- ファイナンシャルサポートとは具体的にどのようなサポートが必要と考えられるか？
- 今後の展開として考えていることはあるか？

と多数の質問や意見を頂き、それぞれに対し適切な回答を行った。

本審査委員会では審査員全員一致して博士（医学）論文にふさわしいものと判断した。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 掲載誌名 | International Journal of Environmental Research and Public Health 第 19 巻, 第 23 号 | | |
| （公表予定）掲載年月 | 2022年 11月 | 出版社（等）名 | MDPI |

（備考）要旨は，１，５００字以内にまとめてください。